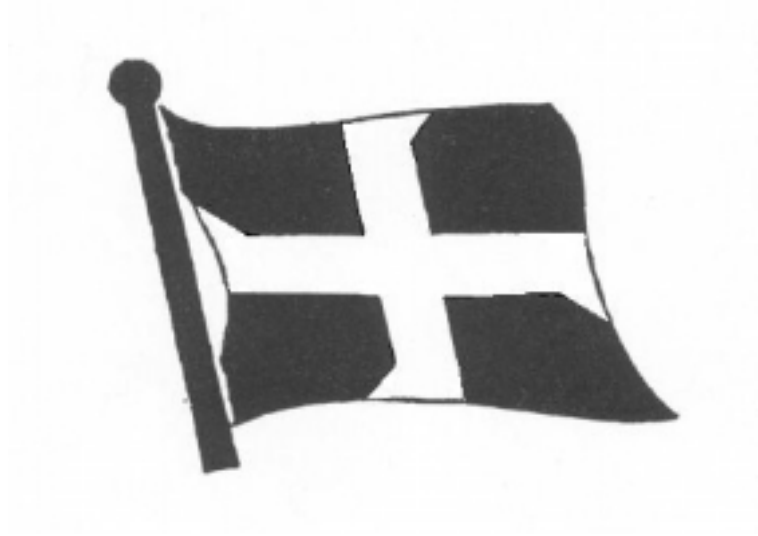


蒼穹NEWS No.2

関西インカレ総括号

平成 17 年 5 月 31 日発行



~~~~ 目 次 ~~~~

1. 主 将 挨 拶
2. 監 督 挨 拶
3. 関西インカレ対校得点
4. 関西インカレ詳細
5. 新 入 部 員 紹 介

主将挨拶

今年の関西インカレは去年の36点を3点上回る39点を獲得し、男子総合では8位になるという好成績を収めることができました。また多くの選手が自己ベストあるいはベスト近くの結果を残し、大変有意義な試合でありました。

しかし去年と同様、一部校との実力差を実感させられた種目も多数あったのは事実であります。しかし、今回の関西インカレにおいて我が部は雰囲気はさらによくなり、今後行われる七大戦・東大戦に向けて関西インカレで得た経験を活かし、各自目標をきっちり持ち練習に励んでおり、今後の成長が楽しみであります。

蒼穹会の皆様には、これからもどうぞご指導・ご声援のほど宜しくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部主将 松井 延行

監督挨拶

今年の関西インカレでは男子は昨年の獲得得点を上回り8位という結果に終わりました。

女子は他大学の厚い壁に阻まれ得点はなりませんでした。

選手達が高いパフォーマンスを残したにもかかわらず、勝負をさせてもらえない種目もあり、やはり他大学の強さというのは昨年同様感じさせられるところもありました。しかし、選手達は高い意識を持って練習しており、これから更なる飛躍を期待される選手も少なくないと思っています。

来年は男女ともに今年以上の結果を残せるように努力していきたいと思っております。

蒼穹会の皆様にはこれからも御支援・御声援のほど宜しくお願い申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 脊戸 和寿

第82回関西学生陸上競技対校選手権大会

男子1部総合成績

1位	京都産業大	156点
2位	大阪体育大	148点
3位	立命館大	115点
4位	関西学院大	84.5点
5位	近畿大	71点
6位	関西大	64点
7位	天理大	47点
8位	京都大	39点
9位	同志社大	36点
10位	神戸大	33点
11位	関西外国語大	22点
12位	大阪大	10.5点

男子1部トラックの部

1位	京都産業大	124点
2位	立命館大	89点
3位	大阪体育大	69点
7位	京都大	30点

男子1部フィールドの部

1位	大阪体育大	73点
2位	天理大	38点
3位	関西学院大	36.5点
12位	京都大	4点

男子1部混成の部

1位	関西学院大	15点
2位	大阪体育大	6点
3位	京都大	5点

男子2部総合成績(上位のみ)

1位	龍谷大	137点
2位	大阪教育大	93点
3位	甲南大	79点
4位	太成学院大	64点
5位	和歌山大	64点
6位	京都教育大	53点
7位	大阪経済大	49点
8位	摂南大	44点

女子総合成績

1位	大阪体育大	181.5点
2位	関西大	83点
3位	甲南大	75点
	京都大	0点

第1日目 4月28日(木) 長居周回

ハーフマラソン決勝

1位	上間 翔太	(京都産業大)	1:06:39
2位	樋口 達夫	(立命館大)	1:07:51
3位	渡辺 圭一	(京都産業大)	1:08:00
12位	相澤 泰隆	(京都大 D1)	1:11:47
16位	渡邊 敬宏	(京都大 M1)	1:13:50
20位	宇部 達	(京都大 4)	1:17:03

男子ハーフマラソンは、初夏のような暑さの中スタート。予想通り大集団でレースは進む。暑さのせい、集団のペースは速くはない。ところが、調子の上がらなかった宇部は、一周目の通過を前に集団から離れてしまう。続いて渡辺、相澤と序盤で先頭集団から姿を消してしまう。渡辺は、暑さの中苦しみながらも、一人でピッチをきざんでいく。相澤も、回りにいる選手と競り合いながらレースをすすめる。宇部も苦しいレース。回りの選手においていかれ、後続の選手とともに走る。先頭は、前評判のとおり、立命館の三選手と京産大の三選手が別次元のスピードで突っ走っていた。結局、京都大の三選手はそのままゴール。三人とも、ベストではないが、暑さの中最大のパフォーマンスを見せてくれたのではないだろうか。ただ、上位は悪条件下でも、しっかり走っている。精神的な強さ、身体的タフさを身につけることが、これからの課題であろう。いい経験になったレースであった。(吉川)

第2日目 5月19日(木) 長居第1・第2

4×100mR 予選(2組3着+2)

森村あかね・河合春菜・横田裕子・林奈央
1組8着 56.67

一走の森村は力強い走りでカーブを疾走するも、七レオンということもあって内側の選手にややつめられながら二走の河合へバトンパス。軽快な走りを見せ、他大学とも競り、三走の横田へとバトンパスを成功させる。横田はあまり離されることなく粘って四走の林へバトンを渡す。しかしこの時点で他大学に十メートルほどの差をつけられていて、林は快走したが最下位でゴールした。バトンの精巧さが目立ったレースだった。(藤崎)

4×100mR 予選(2組3着+2)

瀬々井巖士・藤井章輔・石田真大・松井延行
2組6着 41.99

一走の瀬々井は得意のスタートダッシュをうまく決め、すばらしい走りで他校に差をつめさせなかった。ややつまり気味でバトンを受けた藤井(章)は他校につめられはしたものの、普段どおりの走りで三走の石田にバトンをつないだ。石田はスピード感あふれる走りで内側の選手を抜き去るような勢いであったがアンカーの松井がやや早めに飛び出したため、バトンがスムーズに渡らなかった。しかし、松井も走り自体は悪くなく、他の選手に離されることなくゴールした。(大野)

女子 1500m 予選(3組3着+3)

川口紗弥香(2) 2組15着 5.13.28

ペースの速い先頭集団にはつかず、自分のペースでスタートした川口。集団の外で周りの選手と競いながら、800mを好タイムで通過。その後少しペースが落ちたものの、近くを走る選手と競い合いを続け、大きく崩れることなく走りきった。自己ベストの更新はなかったが、大学ベストに迫る記録となった。(中村)

1500m予選(2組4着+4)

岡本 英也(3) 2組6着通過 3.59.33
西村 好康(M1) DNS

京都インカレ後も順調に調整できた岡本は専門の800mの前に1500mに登場。有力選手が集まる2組でのスタート。予想通りハイペースでレースは始まったが、岡本はあくまでもマイペースでレースを展開し、一周63秒で通過。その後も安定した走りを見せ、1000mを2分42秒で通過する。先頭集団からは離れたものの、最後まで粘りの走りを見せ、6着でゴール。タイムで拾われ、決勝進出を果たす。(葎中)

10000mW決勝

1位	廣江 悠	(京都大 1)	48:59.90
2位	八木 圭	(関西外語大 1)	49:09.29
3位	柏木 祐紀	(関西大 3)	49:35.67
	杉本 明洋	(京都大 M2)	DSQ

昨年度優勝の杉本と昨年の5000mWインターハイチャンピオンの一回生廣江が出場した。杉本は序盤から軽快にとばして独走し、廣江も二位集団につき、よいレース運びをする。その後も二位に二周さをつけていた杉本だったが、8周を残してまさかの失格となる。杉本の失格により、先頭集団となった廣江は、先頭を引っ張っていく。終盤は先頭二人

の順位が頻繁に入れ替わる激しいレースとなったが、素晴らしいラストスパートで廣江がレースを制した。これからが期待できる。(北野)



1 回生ながら優勝した廣江(右)

ハンマー投げ決勝

- | | | | |
|------|-------|---------|----------|
| 1 位 | 杉村 宜彦 | (大体大 3) | 55m42 |
| 2 位 | 丸山 倫史 | (大体大 4) | 54m51 |
| 3 位 | 新山泰由樹 | (大体大 4) | 53m49 |
| 10 位 | 田中 聡一 | (京都大 3) | 42m09 PB |
- 田中[40m81-42m09- x]

足の怪我が治りきっていない状態での出場となった田中は一投目、丁寧にハンマーをもっていった。少しバランスを崩したが、記録は 40m の大台に乗せて自己記録更新。勢いに乗って二投目は、積極的にタイミングを意識して 42m09 の大幅な自己新をたたき出す。続く三投目は、欲を出しすぎて動きが硬くなりファールに終わった。けっして本調子ではないこの時期での大幅な自己新は、彼の今後の成長に十分期待を抱かせるものであった。(松田)

4 × 400mR 予選(2 組 3 着+2)

花谷直人-水谷太郎-藤井章輔-村地優樹
1 組 5 着 3.14.16 蒼穹新

一走は花谷。スタートからハイペースのレースについていき最後まで粘って、五位あたりで二走の水谷へ。水谷はコーナーを抜けたところでは四位でバックストレートでは前についていき最終コーナーを抜けてホームで三位に順位をあげて三走の藤井(章)へ。まわりのレベルの高い中順位を下げない力走でアンカーの村地へ。カーブを抜けたところでまわりの選手に前に出られたが、頑張ってくいつき、ラストのストレートで一人抜いて五位でゴール。タイムは蒼穹記録を塗り替える好記録であったが決勝に進むことはできなかった。(金村)

対校得点(2 日目終了時点)

- | | | |
|-----|------------|------|
| 1 位 | 京都産業大 | 30 点 |
| 2 位 | 大阪体育大 | 21 点 |
| 3 位 | 立命館大 | 19 点 |
| 4 位 | 京都大
神戸大 | 8 点 |

第3日目 5月20日(金) 長居第1・第2

女子走高跳 決勝

- | | | | |
|-----|-------|-----------|------|
| 1 位 | 曾根麻由美 | (武庫川女大 1) | 1m70 |
| 2 位 | 美馬 範子 | (立命館大 2) | 1m70 |
| 3 位 | 児玉 里穂 | (大阪国際大 4) | 1m65 |
| | 河合 春菜 | (京都大 2) | 記録なし |

練習の高さが 1m45、最初の試技が 1m50 と自己ベストの高さからの挑戦となった河合。踏み切り前の助走で失速してしまい、流れた跳躍になってしまった。結果は記録なしと不本意であろうが、この失敗を次の試合に活かしてもらいたい。(萩沢)

100m 予選(4 組 3 着+4)

- | | | |
|----------|---------|--------------|
| 松井 延行(4) | 2 組 7 着 | 11.29 (-1.2) |
| 瀬々井巖士(4) | 1 組 6 着 | 11.63 (-0.5) |

一組九レーンでの出場の瀬々井は少し前まで体調を崩していたが何とかこの大会に間に合わせることができた。スタートはまずまずだったがその後伸びずに 11 "63 でゴール。体調のすぐれないなか、初めての関カレで健闘してくれた。二組六レーンで出場の松井はスタートが少しおくれ、そのまま前との差をつめられず 11 "29 でゴール。スタートがもう少しよければ展開も変わっていたかもしれない。(金村)

1500m 決勝

- | | | | |
|------|-------|----------|---------|
| 1 位 | 田子 康宏 | (立命館大 4) | 3.47.85 |
| 2 位 | 池田 泰仁 | (立命館大 4) | 3.48.54 |
| 3 位 | 森田 司 | (京産大 4) | 3.48.57 |
| 10 位 | 岡本 英也 | (京都大 3) | 3.55.20 |

1500m 決勝はスローペースでのスタートとなった。岡本は集団の後方につけ、400m を 63 秒、800m を 2 分 06 秒で通過し、安定したペースでレースを展開していく。1000m で集団がばらけ出し、先頭の選手はスパートをかける。岡本もスパートをかけ、懸命の走りで先頭を追うが、徐々に差が開いていき、最後は自力の差が出て、10 着でゴール。しかし、次

の日の800mにつながるレースとなった。(葎中)

女子 400m 予選(3組2着+2)

林 奈央(2) 1組6着 68.42 PB

最近伸びてきている林が出場した。周りの選手たちとのレベルの差は大きく、スタート直後から一人取り残されるレース展開となってしまったが、周りの走りにつられることなく自分のペースをきっちり守り、見事自己ベストを更新した。今回は周りの選手についていくことができなかったが、関カレで走ったことを自信にして練習に励んでもらいたい。(山本)

400m 予選(3組2着+2)

水谷 太郎(3) 3組9着 51.87
藤崎 淳(2) 2組9着 53.54

藤崎は二組九レーン。怪我で今期出遅れた藤崎はレース勘が戻っているかが不安の種であった。最初からとばして積極的な走りを見せたものの最後は練習があまりつめていない状況であったため最下位におわる。水谷は三組二レーン。風邪で体調が万全でない水谷は不安をかかえながらのスタート。前半から切れがなく、最後までずるずるとひきずってしまったレースであった。(葎中)

円盤投決勝

1位 松室 正輝 (天理大4) 46m38
2位 森 干城 (立命大3) 43m40
3位 吉木 雄貴 (大体大2) 43m03
18位 森川 陽介 (京都大3) 30m54
森川[29m91- x 30m54]

ランキングは下から3番目で挑んだ森川であったが、やはり試合が始まってみるとそのレベルの高さを痛感せざるをえなかった。1投目、円盤は左方向に低く飛び、29m91を記録する。明らかに失投であった。2投目、左方向に大きくそれファウル。3投目、気合のこもった声が発せられるが、30mラインを超えるのがやっとであった。結果、30m54で18位であった。ベストにも遠く及ばず、本人にとっても不本意な結果であった。ベスト8に残るにもまだまだ力不足は明らかである。これをバネに大きく飛躍できるよう頑張してほしい。(野々垣)

三段跳決勝

1位 奥 博詞 (関西大3) 15m44 ±0.0
2位 黒田 育未 (立命大3) 15m25 +0.7
3位 川口 大樹 (大体大3) 14m95 ±0.0
7位 福山 大典 (京都大M1) 14m48 0.1
13位 横矢龍之介 (京都大4) 14m09 ±0.0

14位 吉良 佳晃 (京都大2) 13m84 ±0.0

福山[x 14m42 14m48 x x x]
横矢[x 13m25 14m09]
吉良[x x 13m84]

吉良はなかなか踏み切りを合わせることができなかったが、3本目に何とかまとめあげ13m84という記録で終わった。

横矢も3本目はかたさがだいぶ取れまずまずの跳躍記録は14m09。

ベスト8に残ったのは福山のみ。2本目に14m48という記録を残したが、その後はなかなかステップにつながられず悪戦苦闘。期待のかかった6本目もファールとなり記録は伸びなかった。(松久)

10000m 決勝

1位 井川 重史 (京産大4) 29.43.41
2位 長井 健輔 (大体大3) 29.58.53
3位 上間 翔太 (京産大4) 30.03.31
11位 相澤 泰隆 (京都大D1) 31:39.11 PB

午前中は涼しかったが、午後から気温が上昇する中、男子一部10000mのスタート。直後、立命館の選手が勢いよく飛び出した。相澤は、自分のペースにあった集団でペースを刻む。一キロ3分一桁台の速いペースだ。相澤の5000mの通過は、15分37秒。すばらしい走りを見せていた。後半は集団から遅れるも、力強い走りでまとめることが出来た。自己ベストを大きく更新する結果となった。得点は取れなかったものの、チームにより雰囲気をもたらしてくれた。(吉川)

十種競技(前半)

花谷 直人(M2) 3107点
[100m11.34(+1.0)-LJ5m90(-1.0)-SP8m57-
HJ1m65-400m49.20]
垣畑 陽(5) 3394点
[100m11.40(+0.3)-LJ6m80(+0.0)-SP11m15-
HJ1m75-400m52.28]

垣畑は試合前の調整もうまくいき100mから3種目連続自己ベストを出し、何かが違うという空気を出していた。走高跳はやや不本意な結果ではあったものの、最後の400mでもベストを出し2日目につながる終わり方をした。

花谷は走高跳まではまずまずの記録を残し着実に得点を重ね、今大会マイルメンバーとして蒼穹新も出している400mで自己ベストを更新してガッツポーズを見せてくれた。

両者とも2日目を期待させる初日であった。(高橋直大)

対校得点(3日目終了時点)

1位	立命館大	67点
2位	京都産業大	66点
3位	大阪体育大	56点
7位	京都大	10点

第4日目 5月21日(土) 長居第1・第2

女子 走幅跳決勝

森村あかね(3) 24位 4m71(+0.4)
森村[4m71-4m63-4m59]

女子走幅跳に出場したのは、最近練習でも調子がよく、走力も伸びてきている3回生の森村あかね。踏切が合うかどうか少し心配であったが、1本目はしっかりと合わせてきて自己ベストにせまる4m71を跳んでみせ、これが最終的な記録となった。練習では5mも跳んでおり、力は十分に持っているため、これからの試合に期待がかかる。(林)

110mH 予選(2組3着+2)

佐藤真一郎(M2) 2組4着通過 14.95(+0.0)
萩沢 祐樹(2) 1組 DNF

萩沢はこのところずっと懸念材料であったスタートに失敗してしまい二台目で少し遅れ、三台目もうましくいかず流れに乗れなかったため競争を中止してしまった。佐藤は前半からうまく流れにのり後半もよく粘ってゴールした。最後に脚がつったようで一瞬ひやとしたが大事にはいかなかった。同タイムで三人が並び抽選の可能性もあったが九人決勝となり、見事決勝に進出。(井上)

女子 100mH 予選(3組2着+2)

滝上 伸子(M1) 3組7着 18.19(-0.1) CB

女子100mHには滝上が出場した。スタートはまずまずうまくいき、出だしは横一線であった。前半はインターバルを三歩で走り、周囲にくらいついてしたが、中盤から後半にかけてインターバルが五歩になったところで周囲との地力の差が出て離され、七位でフィニッシュした。前半のスピードとインターバルをどう維持するかが今後の課題となりそうだ。(西山)

3000mSC 決勝

1位 佐藤 章徳 (京都大M2) 9:02.79
2位 横尾信太郎 (関外大3) 9:06.97
3位 藤久保匡人 (京産大1) 9:08.57
19位 山下 輝芳 (京都大4) 10:23.82 PB

佐藤は先月の兵庫リレーカーニバルで自己ベストを更新し、今波に乗っている。号砲が鳴り、3000mSCはスタート。一周目で集団が二つに分かれ、佐藤が第一集団に、山下は第二集団についていく。先頭は1000mを2分57秒で通過し、そこから一人が飛び出し、佐藤が二番手につける。一方第二集団は1000mあたりからばらけ、苦しいながらも山下は粘りの走りを続ける。佐藤はラスト一周で先頭につくと、ラスト150mでかわし見事優勝、山下も自己ベストを出し健闘した。(藤沢)



貫禄の走りを見せた佐藤

女子800m予選(6組3着+6)

岩瀬 祥子(M1) 6組7着 2.42.02

岩瀬は、調整はうまくいっていたようだが、直前に腰に痛みを感じ、不安を抱えたままの出場となった。また、同じ組にエントリータイムがほぼ同じ選手がいたが、その選手が欠場したためスタート直後から一人で走らなければならない苦しい展開となる。400mは岩瀬にとって遅い通過となり、その後もペースが上がらず悔しいレースになってしまった。(中村)

800m 予選(4組3着+4)

岡本 英也(3) 2組1着通過 1.53.48
前田 昌也(4) 3組5着 1.56.20 PB

前日の1500mにも出場した岡本は、入りの一周を

先頭集団の最後尾で通過する。次の周もその順位をキープしたまま最終コーナーに入り、他の選手のペースが落ちる中、残り100mでラストスパートをかける。そして最後の100mで他の選手を抜き去り、予選を組1位で通過。終盤の勝負強さが見られたレースであった。決勝に期待できる。4回生の前田は、一周目を4位で通過し、次の一周で順位を一つ落とし、5位でゴールした。惜しくも予選敗退ながら、一部の大舞台で好レースを見せてくれた。(北野)

砲丸投決勝

1位	中村 佳弘	(京産大4)	15m59
2位	武田 篤哉	(立命館大2)	14m74
3位	高久保雄介	(大体大1)	14m73
14位	森川 陽介	(京都大3)	11m58

森川[x-11m58-x]

森川は練習投擲から投げのタイミングが全く合っていなかった。一投目はひとまず記録を残しておきたいところであったがサークルの前から足が出てしまった。二投目は記録を残せはしたものの、12メートルを超えることができなかった。三投目で記録を伸ばしたいところであったが、結局ファールであった。最近調子を落としていたこともあり、今回は不本意な結果となってしまったが、七大戦まではまだまだ時間があるので、技術の補正と体力アップに全力を注ぎ、しっかり調整してもらいたいものである。(田中聡一)

走高跳決勝

1位	井奥 一樹	(神戸大M1)	2m10
2位	小菅 優人	(大体大4)	2m05
3位	相原 武訓	(天理大4)	2m05
	松久 佳弘	(京都大3)	NM

試技は1m90から始まった。これは松久のベストを上回る高さであった。いきなりベストの高さから始まったため、1本目は失敗のジャンプとなった。2本目は良い跳躍だったが、少し高さが足りなかった。改めて1部の強さを知ることとなった。しかし、松久にとってこの大きな舞台で挑戦できたことは今後の成長に役立つことだろう。この刺激を生かして、次へがんばってほしい。(高橋孝治)

110mH決勝(±0.0)

1位	川原 亮	(同志社大3)	14.35
2位	山田 庸介	(大体大3)	14.51
3位	松本 博貴	(京産大2)	14.53
6位	佐藤真一郎	(京都大M2)	14.84

予選同タイムのため九人となった決勝レース。七レーンから飛び出した佐藤はまわりに遅れることなく前半から積極的な走りをみせる。予選でつった影響もあったであろうがそんな様子は微塵もみせず、三~五台目あたりも巧みなハードリングでこなしていった。後半に入ってもその勢いを殺さず、地力の劣る者が次々と遅れていくなか佐藤は最後まで前に食いつき得点をもぎとった。(井上)

200m 予選(4組3着+4)

大野 淳史(2) 2組6着 22.83(+0.2)

男子200mには大野が出場した。スタートでかなり出遅れてしまったがコーナーと最後のストレートは力まずに走ることができた。しかし周囲との力の差が出て離されてしまった。怪我が治った直後であり、また、スタートの出遅れも響いてしまったようだ。最後はバテたと本人も言っており、早く怪我のブランクをうめて完全復帰してほしいものだ。(山田)

400mH 予選(3組2着+2)

水谷 太郎(3) 2組2着通過 52.01
 桑原 昇(3) 1組7着 56.24 PB
 桑原はスタートはまずまずであったが四台目あたりからまわりから離されてしまいそのままつめることができずフィニッシュ。水谷は練習から一台目の足が合わず、本番でも一台目は逆足でとんでしまう。そのせいかまわりからどんどんつめられたが最後のコーナーあたりから差をつめていき、最後のハードルをこえてから一人交わして二位でフィニッシュし、決勝進出をきめた。(金村)

十種競技(後半)

花谷 直人(M2) 2364点
 [110mH16.57(+0.8)-DT21m99-PV3m00-JT38m94-1500m4.53.08]

垣畑 陽(5) 2963点
 [110mH15.39(-0.4)-DT34m74-PV3m80-JT42m93-1500m5.00.84]

垣畑は前日からの勢いに乗ってこの日も絶好調。110mHで自己ベストにせまるタイムを出し波に乗り、その後の円盤・棒高も、ベスト・ベストタイとつづいた。大記録が見えてくる中残り2種目も集中を切らさず、見事蒼穹新を成し遂げた。

花谷は得意種目が少ないなかなんとかくらいについて好記録を連発し、入賞はできなかったものの総合で自己ベストを更新。1500mの後には満足そうな笑顔を見

せた。

2 日間の長い戦いを終えた選手たちは、競技終了後スタンドからの大きな拍手でたたえられた。(高瀬)

十種競技(総合)

4 位 垣畑 陽 (京都大 5) 6357 点 蒼穹新
12 位 花谷 直人 (京都大 M2) 5471 点 PB

対校得点(4 日目終了時点)

1 位 京都産業大 111 点
2 位 大阪体育大 99 点
3 位 立命館大 88 点
8 位 京都大 26 点

第 5 日目 5 月 22 日(日) 長居第 1・第 2

やり投決勝

1 位 中江 雅士 (同志社大 4) 68m03
2 位 音川 健 (京産大 3) 67m63
3 位 山本 竜徳 (大体大 4) 66m74
山本 貴之 (京都大 2) NM

入賞ラインが 6 0 m を悠に超える 1 部のやり投げは、持ち記録 5 4 m の山本にとっては厳しい戦いになることが予想された。公式練習では 5 3 m 付近を投げ、調子自体はまずまずなことをうかがわせる。しかし、1 投目、気負いからか力みの見られる投げは右にそれファウル。やり先も上を向き山本の悪い癖が出ている。2 投目も同じようにファウル。そして 3 投目、惜しくもラインの少し外側、結局 3 投とも同じようなファウルで記録なしに終わった。修正がきかなかつたのは残念であるが、ファウルを恐れず思い切り投げられた点は評価できる。山本の今後の奮起に期待したい。(野々垣)

400mH決勝

1 位 桐山 一樹 (京産大 4) 50.95
2 位 水谷 太郎 (京都大 3) 51.32 蒼穹新
3 位 モーゼス未来(大体大 1) 51.65

水谷は予選でスタートを失敗した嫌な流れを断ち切る好スタートを見せ、先頭でレースを引っ張った。普段はあまりとばしていかない前半から果敢に攻めて勝負に出た。五～七台目あたりで先頭から少し遅れるが、ここから水谷の真骨頂であるラストスパートが炸裂す

る。八台目あたりからスピードを上げ、広がった差をじわじわとつめて九台目で一気に前をとらえる。十台目をこえたところで後続を離し単独の二位に。水谷は念願の自己ベスト更新を達成し、その右手を高らかと掲げた。(井上)

800m決勝

1 位 姜 裕史 (大体大 4) 1:52.49
2 位 住田 充 (関学大 4) 1:52.49
3 位 松田慎太郎 (立命館大 1) 1:53.21
5 位 岡本 英也 (京都大 3) 1:53.34 PB

岡本は前日の 8 0 0 m の予選を組一着で通過し、力のある走りを見せている。スタートの号砲とともに、選手が一斉にスタート。序盤岡本は集団の後ろにつき一周目を 5 8 秒で通過する。集団に大きな変化のないまま、6 0 0 m までレースが進み、そこから岡本は徐々に順位を上げ、ラスト 1 0 0 m でスパート。猛烈なスパートの末、5 位に食い込み、期待通り京大に得点をもたらしてくれた。(藤沢)

走幅跳 決勝

1 位 前西 祐介 (近畿大 4) 7m54(±0.0)
2 位 井奥 一樹 (神戸大 M1) 7m35(+0.1)
3 位 高橋 健太 (近畿大 4) 7m34(±0.0)
7 位 杉本 昌大 (京都大 4) 7m01(±0.0)
15 位 高橋 孝治 (京都大 3) 6m59(+0.6)
杉本[6m72-7m01-7m00-6m73- x - x]
高橋[6m35-5m05-6m59]

男子走幅跳は雨が降ったりやんだりというコンディションの中行われた。

杉本は今期、本来の実力とはほど遠い記録しか残せていなかったが、この大舞台にしっかりと調子を合わせ 2 本目に 7m01 を跳び、去年に続き関カレ 1 部での入賞を達成した。

高橋は練習では良い助走をしていたが、本番になると動きにかたさが見られ、目標としていた自己ベストは果たせなかった。(高瀬)

5000m 決勝

1 位 森田 知行 (立命館大 3) 14.10.97
2 位 田子 康宏 (立命館大 4) 14.11.43
3 位 村刺 厚介 (京産大 4) 14.12.25
16 位 佐藤 章徳 (京都大 M 2) 15.05.90
20 位 高橋 宏昌 (京都大 M 1) 15.20.51

小雨の中 5 0 0 0 m はスタート。一人の選手が飛び出

すが、集団はそれを追わずにダンゴ状態になる。佐藤と高橋もその集団に食らいついていく。中盤その大集団は2つに分かれる。後ろの集団にいた高橋は必死に前の集団に追いつこうとするが、スタミナ切れで徐々に後退する。佐藤は、後ろの集団で自分のペースを刻み、終盤10位と得点圏が見える位置に。しかし最後は力負けしてしまい、16位でゴール。高橋は20位でのゴールとなり、残念な結果となった。
(吉川)

平成 17 年度新入生名簿

名前	学部	出身高校(都道府県)	パート	種目・高校ベスト
男 子				
有山 啓史	経	奈良(奈良)	短	100m 11.71
上田 道久	農	致遠館(佐賀)	中	
大澤健太郎	工	向陽(愛知)	長	
押野 泰平	工	金沢泉丘(石川)	短	400m 53.10
小野山博之	農	函館ラ・サール(北海道)	中	1500m 4.32
久下 哲寛	経	昭和薬科大学附属(沖縄)	跳	
下條 亘	工	茨木(大阪)	長	3000mSC 10.29
近藤 学宏	工	桑名(三重)	長	3000mSC 9.41
佐藤 翔士	工	四条畷(大阪)	中	
田中 翔吾	理	膳所(滋賀)	中	800m 2.08
田淵 亮	工	北野(大阪)	長	5000m 15.50
中井 純一	法	天王寺(大阪)	長	
中島 哲郎	理	兵庫(兵庫)	理	3000mSC 10.43
野田 崇洋	経	岡崎(愛知)	中	1500m 4.18
平子 達也	文	旭丘(愛知)	中	800m 2.01.9
廣江 悠	経	奈良学園(奈良)	競歩	5000mW 20.59.66
藤原 恭平	工	姫路東(兵庫)	短	400m
前田 達朗	法	徳山(山口)	長	5000m 15.48
三浦 祐介	工	清風南海(大阪)	跳	
三甲野祐介	工	堀川(京都)	短	100m 11.19
山中 康寛	農	半田(愛知)	長	5000m 15.48
女 子				
片山裕美子	総人	藤枝東(静岡)	中長	
花田 沙穂	経	宮崎第一(宮崎)	長	
早瀬紗也佳	工	茨木(大阪)	跳	走幅跳 5m13



蒼穹ニュース 平成17年度 第2号

平成17年5月31日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：井上智史・高瀬雄一郎・福山拓郎（副務）

特別協力：田中齊太郎・吉良佳晃・田端康平（学連員）・滝上伸子（体育会員）

大野淳史（記録係）・横田裕子（HP係）

写真担当：西山佳孝・山田裕・吉川浩太郎

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

陸上競技部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス tkr.f-1123@s2.dion.ne.jp（福山）